DPF車載洗浄作業の流れ

①洗浄前のDPF差圧を測定します。無負荷、アクセル全開で差圧を測定します。

②CPUのNoxセンサーの配線コネクタを取外しします。Noxセンサーに水分が
付着しますと割れることがありますので、通電しないようコネクタを外して
おきます。

※NoxセンサーはCPUの入口　出口に
ありますので両方のコネクタを外します。
Noxセンサーを取り外してもOKです。

③DPFの温度センサーを取り外します。

④洗浄ノズルを取り付けます。

※ノズルの穴の向きをマフラー側に
して、テープで固定します。

⑤セット完了、DPFリフレッシャーのスイッチON
　　中型トラック以下はノーマルスイッチ　大型トラックはパワフル」スイッチ

にします。

⑥Cleaner1が注入されます。これは煤を分解します。エアーで洗浄液を押し付けます。機械がこの作業を繰り返します。

※Cleaner1の作業時間はおおよそ15分程度です。
アルカリ性の洗浄剤です。
注入量は600cc、中型で400ccです。

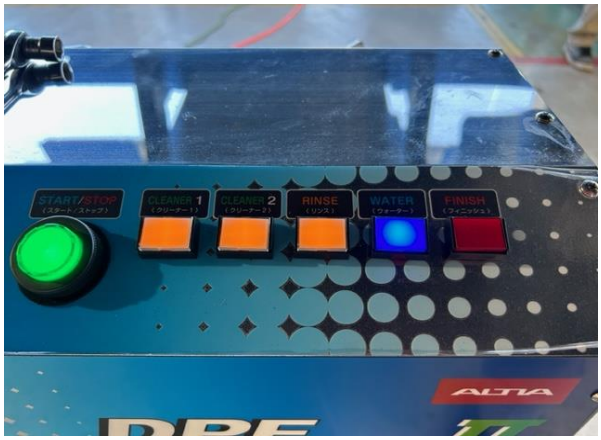
⑦Cleaner2が注入されます。これはアッシュを分解します。エアーで洗浄液を押し付けます。機械がこの作業を繰り返します。

※Cleaner2の作業時間はおおよそ15分程度です。
強い酸性の洗浄液です。
注入量は600cc、中型で400ccです。

⑧Rinseを注入します。アルカリ性のCleaner1と酸性のCleaner2 を中性にします。エアーでRinseを押し付けます。機械がこの作業を繰り返します。

※Rinseを作業時間はおおよそ15分程度です。
注入量は大型で900cc　中型トラックで600ccです。
薬剤を中和してDPFの損傷を防ぎます。

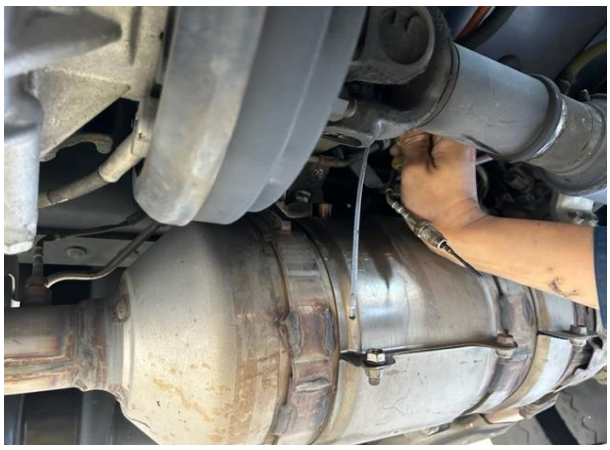
⑨水を注入します。Cleaner1　Creaner2　Rinseを水で洗い流します。



※水で洗い流し作業はおおよそ10分程度です。
注入量は大型トラックで約900cc　中型トラックで600ccです。
水で洗い流します。

⑩洗浄作業が終了しました。

⑪注入ノズルを取り外します。



⑫DPF内の水分を自然乾燥させます。エンジンを始動します。エンジンの回転数を2000rpmに保ち、DPFのOUT温度を120度まで上げます。マフラーから水分が出ますので受皿を用意します。

※マフラーから水分が出なくなることを確認します。
水分でCPUのNoxセンサーが破損することがあります。

⑬CPUのNoxセンサーコネクトを接続します。

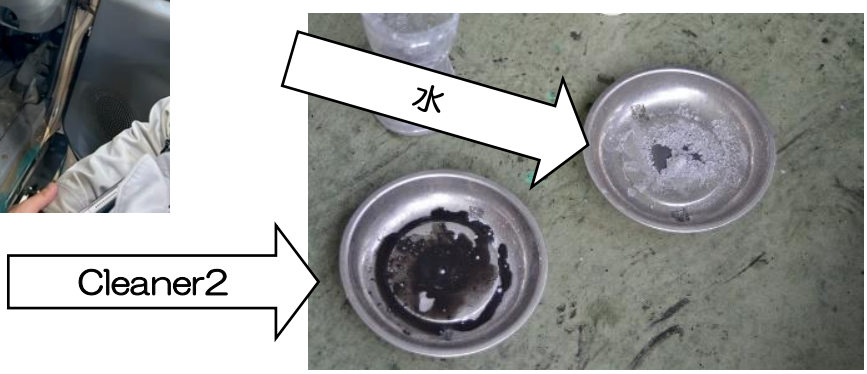
※NoxセンサーはCPUの入口　出口にあります。

⑭スキャナーツールから強制燃焼をさせます。

※DPFのIN温度が約500度、OUTが約400度程度になります。

⑮強制燃焼が終わります。差圧の測定をします。無負荷のアクセル全開で差圧を測定します。

ご参考　Cleaner2でアッシュは解けて細かくなります。



DPF分解洗浄作業の流れ

①入り口側を上に、出口側を下にして置きます。写真1

写真1

②表面の煤をエアーブローして取り除きます。

③クリーナー１を700㎖をジョーロでDPF表面全体に
振りかけます。クリーナー1は煤取りです。写真2

④クリーナーをDPFの奥まで浸透させるためエアー
で押し込めます。写真3

⑤クリーナ１が煤を取り除く
のに20分ほど必要です。

写真2

写真3

⑥クリーナー2を700㎖ジョーロでDPF表面全体に振りかけます。
クリーナー2は灰（アッシュ）を溶かして細かくします。写真4

⑦クリーナーを奥まで浸透
させるためエアーで押し
こみます。写真5

⑧クリーナー2がアッシュを
溶かして細かくするまで
20分ほど必要です。

写真４

写真５

⑨クリーナー1 はアルカリ性、クリーナー2が酸性です。DPFを損傷しないよう
中和剤のリンスを2100㎖、DPF表面全体に振りかけます。写真6

⑩リンスが全体に浸透して
中和するようにエアーで
押し込みます。

写真６

写真７

3種類の液剤を注入した後です。
DPFの中に3.5ﾘｯﾄﾙの液剤が
入ってます。写真7

⑪15分ほど浸透させたらDPFを逆さまにして出口側からストレートの水を
DPF表面全体にかけます。写真8
DPFの入り口側から煤、アッシュが混じった汚水が出てきます。真っ黒な
汚水がだんだんと透明に近くなってきます。写真9

⑫大型のDPFですと振りかける
水量は約80ﾘｯﾄﾙ程度になりま
す。ほぼほぼ透明になりまし
たら洗浄は終了です。
洗浄の作業時間は1時間40分
ほどです。

写真８

写真９

⑬DPFの入口出口の表面をエアーで水気を取り除き、しばらく乾燥させます。
⑭DPFを車両に取り付けます。Noｘセンサーは水分がかかると破損しますので
取り除くかもしくは配線をカットします。
⑮エンジンをかけ、1500回転で暖機運転をしDPFの中を乾燥させます。出口
温度が150度あたりが目安です。
⑯エンジンを停止させてNoｘセンサーを取り付けます。
⑰再びエンジン始動、強制燃焼をかけます。マフラーの温度が500度～600度
あたりになると強制燃焼が終了します。

これでDPFの分解洗浄の作業は終了です。